

ゆうりんだより

2018.09
Vol.28

出会い

常務理事 児玉 克己

高校の卒業式当日、式典の大嫌いな私は、卒業証書は後日取りに行けばいいと、自宅にこもっていたのだが、その晩遅く誰かが呼ぶ声が聞こえ、外にでてみると玄関先には酒の匂いを漂わせ、彼が立っていた。彼は、「卒業おめでとう。それから、これは餞別」と、卒業証書と重い広辞苑を私に手渡し、「じゃー」と言い残し、背中を向け、千鳥足で帰って行ったのだ。彼は私の担任で、当時30代の若い教師だった。

ずいぶん昔、テレビで観ていた「西部劇」。出てくるインディアンは残虐非道の族。女、子供を殺戮し、頭の皮を剥ぐ。こんな刷り込みから目が覚めるまでずいぶん長い時を要した。力の正義の旗の下、先住民族の弾圧、駆逐が行われ、そして、日本にも同じ歴史があった。

蝦夷地と呼ばれていた所でのアイヌ民族に対する力の論理。自ら学ばなければ知ることの出来ない歴史と現実。強い憤りを感じ、大学へ潜り込んだ翌年、私は彼に長い手紙を書いた。分厚い広辞苑を片手に「アイヌ民族差別」「旧土人法」をなぜ教えてくれなかったのかと、書き連ねた。彼は社会科の教師で、私に「部落差別」「外国人差別」を熱く語り、出身は北海道だった。

その年の冬、彼から、「一度酒でも飲もうか」と連絡がはいり、数日後、一緒に飲み屋の暖簾をくぐった。

「酔う前に渡しておく」彼は一冊の雑誌を私に差し出し、「これが、お前の手紙の返事だ」と言った。その雑誌のページをめくっていくと私の手紙が載っており、「お前からの手紙、全部載せたから」彼はそれだけ言って、酒を飲み始めた。軽薄で生意気な一教え子の手紙を彼はしっかりと受け止めてくれたのだった。

それからというもの、彼との密会は毎年続き、もう50年近くが過ぎた。現役を引退した彼ではあるが、「アウシュビッツに行ってきた」、「原爆展をやる」、「満蒙開拓の歴史を調べている」の姿に、「年寄りの冷や水」と茶々を入れても本人は全く意に介しておらず、いまだ現役を宣言している。

彼は教師として私を受け止めてくれ、人としての成長を支えてくれている。彼が私にしてくれたことをしっかりと咀嚼し、誰かに引き継ぐことが、これからの私のすべきことだと考えている。

人との出逢いは偶然だが、その偶然の出逢いを育むが事がいかに大切であるかを、この歳になると痛感する。

Yuririn Summer Vacation 2018

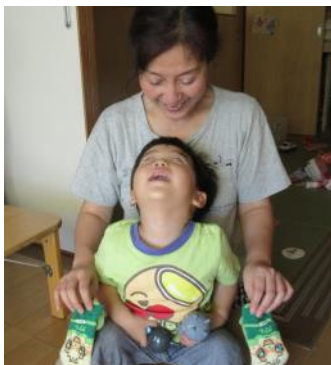


暑い 熱い 夏!
ドキドキわくわくの夏休み
まぶしい太陽とキラキラの笑顔
今年はどんな思い出が出来たかな...





ほだかでは、今年も夏をたくさん楽しみました。
職員の「楽しい!」気持ちは、きっと子どもたち
にも伝わっているはず…。
これからも一緒に共感し楽しむことを大切にしてい
きたいですね。



ふれあいセンターおおだか ～ちびっこのつどい～



今年の夏は猛暑日が続き、プール遊びをたくさん行い、暑い夏を快適に過ごしました。一年前は水が怖くてプールに入れなかった子も、今年は毎日プールを楽しむに通って来てくれました。歓声を上げて遊ぶ子どもの姿を見守るお母さんも嬉しそう。お母さんの優しい笑顔やまなざしに見守られて遊ぶ子ども達も、安心感と満足感で過ごすことができたと思います。

今年の夏は、例年以上に新しい利用者が増えました。広い室内とプールも魅力の一つだったようです。毎日駐車場が満車になる程多くの方々が利用してくれました。8月25日に行われた流しそうめんの会にも大勢の親子さんの参加はもちろんの事、お父さんの参加も今までにない人数で盛大に行われました。又、お父さんにはお手伝いもしていただき、皆さんのご協力のおかげで無事終えることができました。

行事の参加だけでなく、日頃お父さんとの利用も呼びかけています。土曜日はお母さんの時間を作るためにお父さんとお父さんと利用される事もありますので、お父さんが気軽に参加できる機会をこれからも作っていきたいと思っています。



かえで



福井県小浜海水浴場にて

今年の夏は、皆で福井県へ海水浴に行き、花火大会も見ってきました。子どもたちは綺麗な海に喜び、泳いだり魚を探したりと存分に遊びます。花火大会ではその迫力に、子どものみならず大人までもが感動してしまいました。何度も何度も「すごい！」「きれいー！」と声が上がります。大人にとっても子どもにとっても、忘れられない旅になったかと思います。後日、こんがりとした焼けしたのも良い思い出です。

夏休みの間、幼児は夏季保育に行き、「こんなことしたよ」と楽しそうに話すこともあれば、嫌な思いをした話をすることもあり、揺れながらも友達との関係作りを頑張っていました。小学生たちは宿題や復習に取り組み、わからない部分の多さに弱音を吐きながらも、何とか自分の苦手科目と向き合いました。受験生である中学生は進路を本格的に絞り込む時期に入り、部活や勉強をこなしながら精一杯将来を考えています。それぞれ苦労したり悩んだりしながら、少しずつ少しずつ前進しています。

それぞれが楽しいことも苦しいこともたくさん経験したこの夏が、いつか子どもたちが振り返ったとき、少しでも「良い経験だった」と思えるものであると良いなと思います。



きょうわ

『きょうわ』が名古屋市緑区に移転して、1年ちよつと経ちました。現在は、16歳から18歳までの男児4名、女児3名、計7名が生活しており、新しいホームにもすつかり慣れてきました。最近リビングと事務室の模様替えをしました。

リビングには、床に座るタイプの大きな平机が二つ置いてありましたが、ソファのほうに気軽に腰かけられるということで、食卓テーブルとソファを設置し、ふらつと来て腰かけて、談笑できる



上/一般的なリビングダイニングに近いレイアウトになりました。
下/今後は、事務室でまったりする子が増えそうです。

ようにしました。

また、これまで事務室は子どもたちは入室できず、入ロドア付近で座り込んで職員と話をするという状況だったため、事務室内にソファを置き、ブックコーナーを設け、パソコンに向かっている職員のそばでいつでも談笑でき、くつろげるようになりました。

「今日はバイトで疲れた…」「昨日はなかなか眠れなかった」こうした日頃の何気ないやり取りの積み重ねで、子どもたちとの関係を築いていくことを心掛けたいと思っています。

にこにこそだて

ほだかケアワーカー
都築 彩未

ほだかでは、親子関係再構築支援委員会という委員会を設け、『にこにこそだて』という冊子を作成しました。この冊子は、子どもへの適切な関わりについてわかりやすく伝えたり、保護者がお子さんと過ごしていて不安な時や困った時に役に立ててほしいという思いで作ったものです。



できたらという思いがあります。また、困ったときに思い出してもらいやすい名前にしたいとも考えました。

冊子の目次には、「オムツ」、「授乳」、「睡眠」、「ご飯」、「トイレ」などの項目があり、実際に保護者にお話を伺って困り感が強かった部分を中心に取り入れています。上段に困った時の内容をまとめ、下段にはそれぞれに見合った対処法を紹介しておりますが、対処法が必ず有効であるとも限りません。そんな時は、冊子を通して保護者の方と一緒に悩み考えていきたいとも考えています。

『にこにこそだて』は、保護者の方が“にこにこ”笑顔で“こそだて”ができるようにという願いを込めて冊子の題名を考えました。保護者の笑顔は子どもたちが一番に望んでいるものです。保護者と子どもたちの笑顔をもっと増やすことが出来るよう、ささやかながらお手伝いが

完成前には職員同士でロールプレイを行い、



職員同士でロールプレイを行いました。

保護者の方に分かりやすく説明できるように勉強会を開きました。委員会以外の職員から出た疑問や質問を改めて委員会内で考慮し、『にこにこそだて』の冊子に取り入れたりするなど改定を重ねました。完成後には、会議等で改めて全職員に内容を説明し、保護者の方とこの冊子を使ってお話ができるように準備しました。

今後も出来る限り多くの保護者の方へ冊子をお渡しし、内容を見てもらい、様々なご意見をいただくことにより、『にこにこそだて』をさらに良いものにしていきたいと考えています。そして、この冊子が保護者の方だけでなく、職員はじめ多くの方に活用していただけるような冊子になることを目指しています。

職員紹介

ゆうりんケアワーカー

大橋 くるみ



・どうして児童養護施設で働こうと思ったのですか？

私は学生時代、毎日のように母と喧嘩していました。喋ればすぐ喧嘩をし、口を聞かない日も家に帰らない日もありました。中学生の頃には心にグサツとくるような言葉を言われたこともあり、そのころに施設というものを知り、興味を持ったことがきっかけです。教育的な視点ではなく、家庭的な日常生活の中で子ども達を支援していきたいと思いこの道を選びました。母とは大人になり今では喧嘩も少なく仲良くやっています(笑)

・実際に働いて感じていることは？

とにかく毎日が楽しいです。時には子どもとぶつかることもあります、だからこそ関係がつけられることもあると思います。考えることも多いですが、子ども達からパワーをもらうことの方が多いです。私も子ども達にパワーのお返しをしていきたいです。

・ゆうりんで働いて良かったと思うことは？

私にとってこの職場はとても働きやすい環境です。自分の考えや疑問を発信しやすく、それはとても大切なことだと思います。また、一人暮らしをして

いるので自分で自炊しなくても子ども達とご飯を食べられるのはとても助かります(笑) 厨房さんのバランスの取れた美味しいご飯でモリモリ体力をつけています。

・休みの日は何をしていますか？

家にいることは少なく、どこかに出かけていることがほとんどです。勤務の後に弾丸で大阪に行ったりすることもあります。常に体を動かしたいので、学生時代の部活動に参加することも多いです。やりたいことがたくさんあって、富士山に登ること・琵琶湖を自転車で周ること・キャニオニングを若いうちに制覇したいです!!あとはバイクの免許を取るので、これから休みの日は自動車学校に通います!

・最後に一言!

私は働いて2年目になります。これからもいろんな経験を増やして、子ども達の過去や将来にも寄り添っていきたいです。前向きにガッツを持って仕事に取り組んでいきます!



ほだかケアワーカー

矢澤 有沙

・働き始めて約4ヶ月がたちましたがいかがですか？

あつという間でした。毎日反省することばかりで、『明日はもっとこうしてみよう』と思っても思うようにいかないことばかりです。でも子どもたちの成長と共に毎日新しい発見もあって、笑顔になることもそれ以上にあつて、大変だけれどやりがいのあるお仕事だなと思っています。

・子どもたちとおもしろエピソード、大変だったエピソードを教えてください。

七夕の時期、一人の子が「五色の短冊」と歌う所を「五色のざくざく」と歌っていた時には、その場にいたほかの職員さんと一緒に大笑いしました。他にも子どもなりにうる覚えのままた作詞作曲されたり間違えられたりした歌がたくさんあって、かわいらしいです。

大変だなと思うのは、感染症が流行るとすぐに自分にもうつることです。ついこの間は胃腸風邪にも苦しめられました...

・お休みの日の過ごし方を教えてください。

眠ることと食べることが好きなので、ひたすらゆったりとリラックスしています。連休があれば旅行に行くのも好きで、おいしいものを食べたり綺麗な景色を見に行ったりして癒されに

行っています。今の目標はウユニ塩湖に行くことです!

・ほだかの良いところ、好きなところ教えてください。

とてもあたたかいところです。ほだかに新人職員として入るのが私一人だったので最初は不安もありましたが、あたたかく迎え入れ優しく見守っていたので、のびのびと学ばせていただいています。職員の皆さんそれぞれの個性が豊かな所も面白くて、参考にしてみよう、真似してみようと思うことがたくさんあります。

・今後の意気込みや目標など一言お願いします。

親子のこと、子どものことについてもっと勉強していきたいです。そしてゆつたりのんびりと穏やかに、子どもたちと関わっていけたらいいなと思っています。これからよろしくお願いします。



誰かがやるだろう、ではなく、後に入る方のために準備しておく……などですね。家庭でも、職場でも「後工程はお客様」を意識してみませんか。